

伊勢・三河湾貧酸素情報(H29-10号)

平成29年9月7日
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成29年9月1、4日に伊勢湾、9月4、5日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

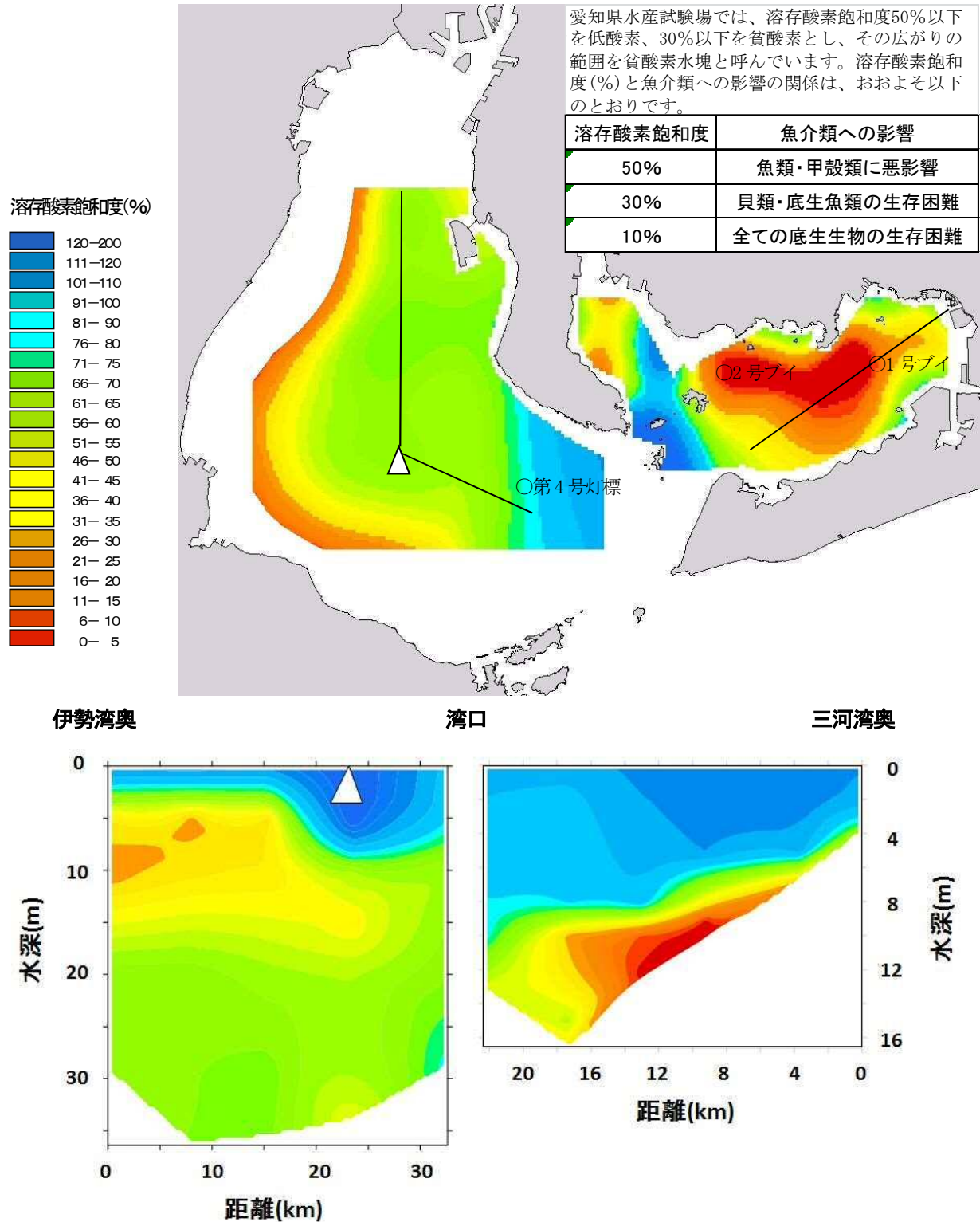


図1 伊勢湾(9月1、4日)、三河湾(9月4、5日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(愛知県「海幸丸」、「〜いわ」調査)

伊勢湾

9月1、4日の調査結果を図1及び表1に示しました。前回調査(8月23、24日)では広い範囲で貧酸素水塊が確認されましたが、今回の調査では湾中央部の貧酸素水塊は解消していました(図1)。

国交省中部地方整備局が所管している、伊勢湾の水質モニタリングシステムの第4号灯標(内海沖)の観測では、8月30日から9月2日にかけて表層水温が29℃から25℃に低下したことにより上下混合が進んだため表層塩分が26から31に上昇し、中層の溶存酸素飽和度が30%前後から90%まで回復しました(図2)。

今後は、水温の低下にともない海水の上下混合が起きやすくなることから、大規模な貧酸素水塊の発達は無いと考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(℃)	塩分
表層	24.4~26.8	29.0~32.8
底層	18.2~23.4	33.0~34.4

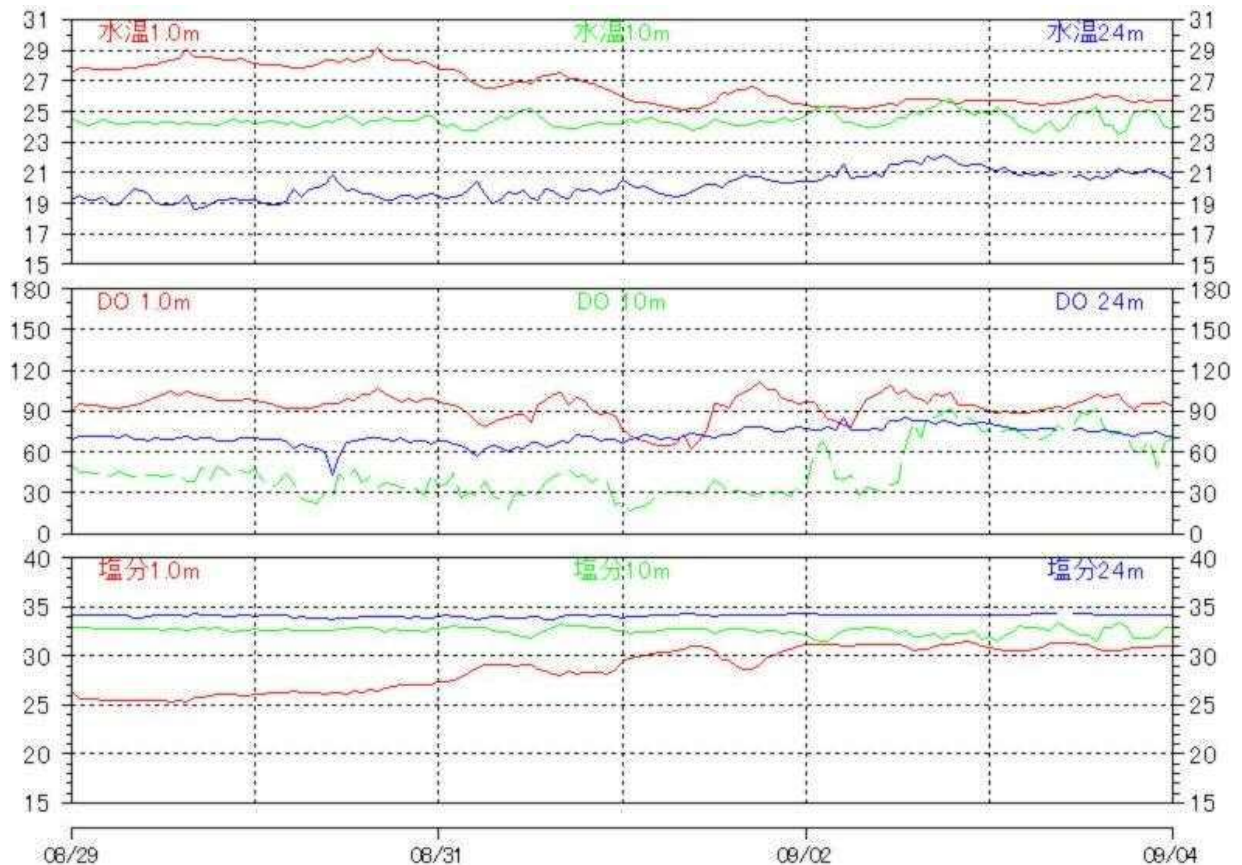


図2 伊勢湾モニタリングシステムの第4号灯標の水温・溶存酸素飽和度(DO)・塩分の経時変化
(中部地方整備局HP 9月7日参照)

三河湾

9月4、5日の調査結果を図1及び表2に示しました。前回調査(8月23日)で、渥美湾奥部に確認された貧酸素水塊は西寄りに移動し、湾中央部で確認されました(図1)。

自動観測1号ブイ(蒲郡沖)と2号ブイ(吉良沖)のデータを見ると、9月2日の午後から3日にかけて風速2.8~8.9m/sの北から西北西の風が吹き、1号ブイでは貧酸素水塊の層が薄くなり、2号ブイでは厚くなっていた様子が観測されました(図3)。

今後は、水温の低下にともない海水の上下混合が起りやすくなることから、貧酸素水塊の規模は徐々に縮小していくと考えられます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.9~28.3	29.5~31.7
底層	22.2~27.8	31.1~33.7

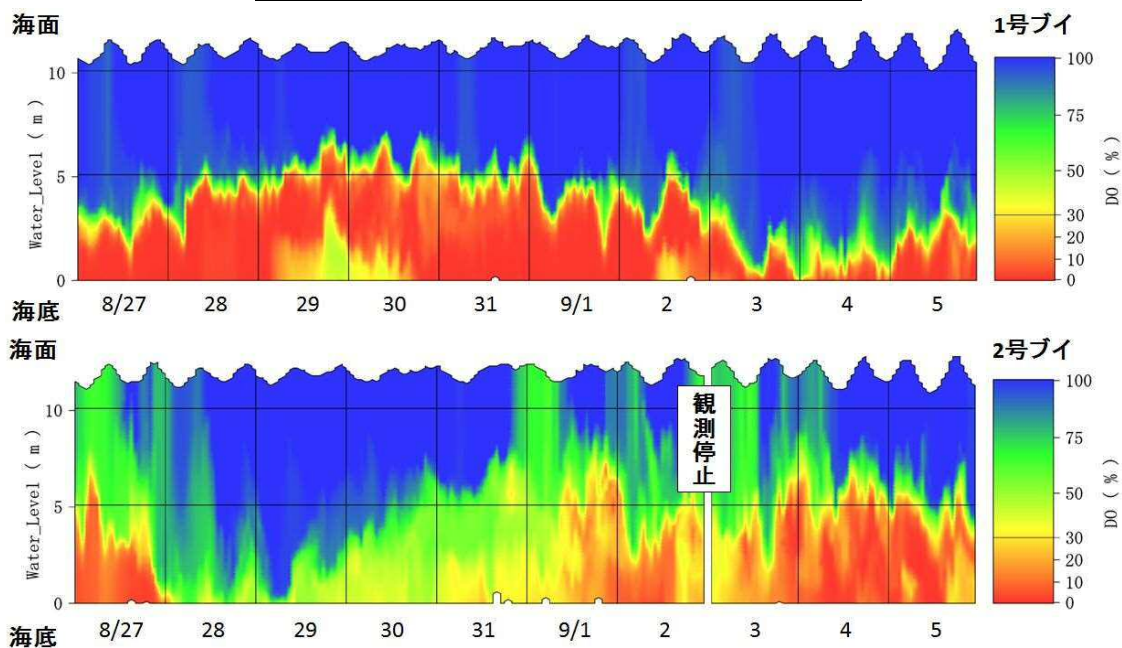


図3 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(上段:自動観測1号ブイ、下段:2号)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

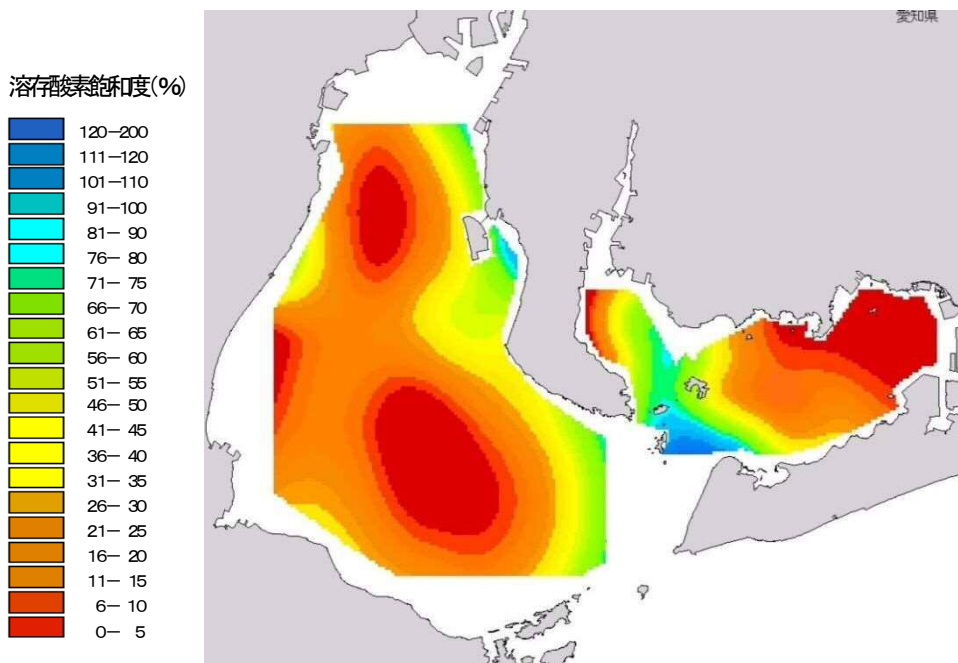


図4 平成29年8月23~24日(伊勢湾)、8月23日(三河湾)